

2 令和4年度の鳥獣被害防止総合対策の実施状況について

I 捕獲対策

1 捕獲の担い手確保・育成【自然保護課】

(1) 狩猟者の確保

① 狩猟免許の取得支援

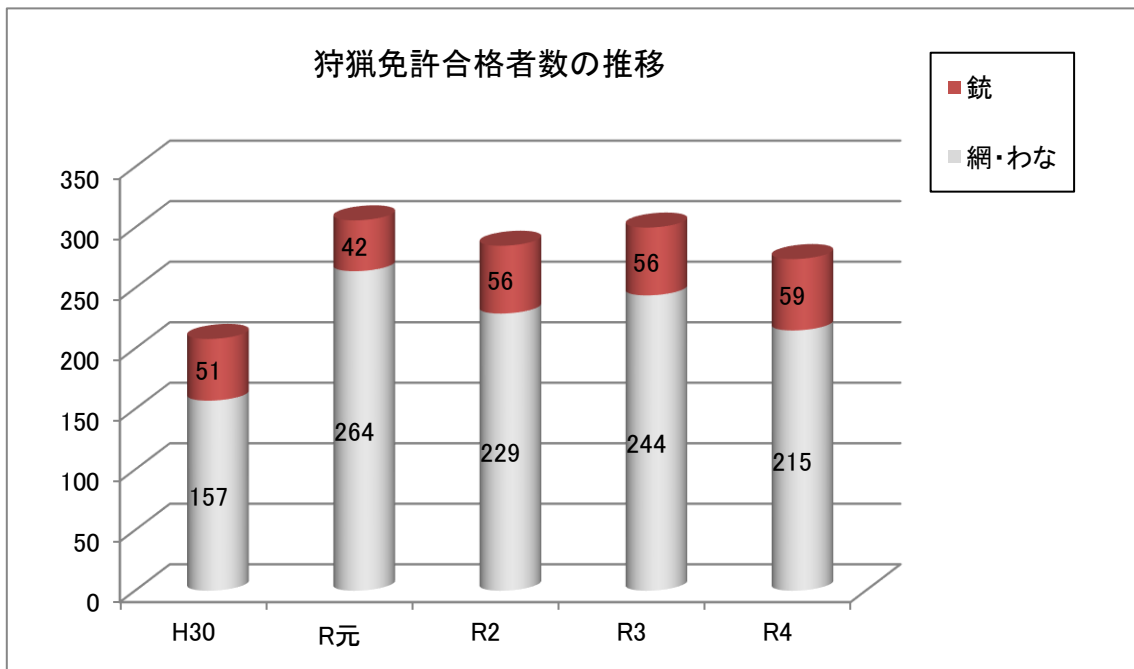
銃猟、わな猟免許の新規取得に係る経費（銃：67千円、わな：15千円）を助成（180人交付）

○狩猟免許合格者数

（単位：人）

区分	H30	R1	R2	R3	R4	増減(対前年度)
網・わな	157	264	229	244	215	▲29人(11.9%減)
銃	51	42	56	56	59	+3人(5.4%増)
計	208	306	285	300	274	▲26人(8.7%減)

※令和4年度：19歳以下10名、60歳以上62名

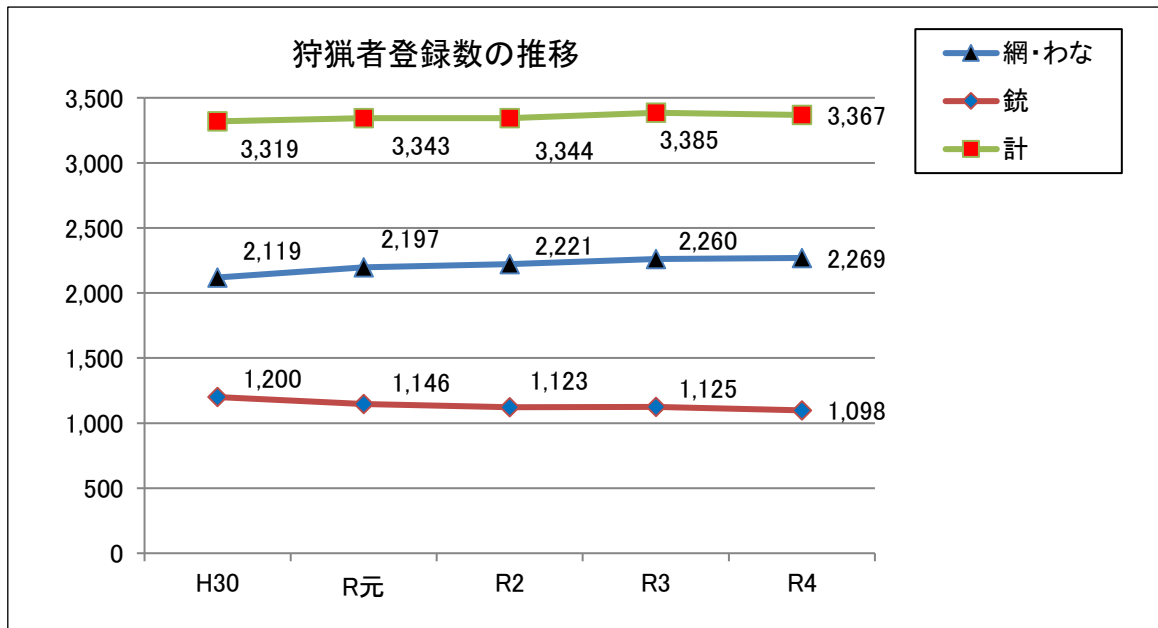


<参考>

○狩猟登録者数

（単位：人）

区分	H30	R1	R2	R3	R4	増減(対前年度)
網・わな	2,119	2,197	2,221	2,260	2,269	+9人(0.4%増)
銃	1,200	1,146	1,123	1,125	1,098	▲27人(2.4%減)
計	3,319	3,343	3,344	3,385	3,367	▲18人(0.5%減)



② 狩猟免許の受験機会の拡大継続

狩猟免許試験を県内6カ所で開催（柳井市、周南市、山口市、防府市、美祢市、下関市）

③ 普及・啓発

- ・ 県ホームページへの掲載、市町広報誌

(2) 捕獲技術の研鑽

① 鳥獣捕獲の担い手確保・育成（猟友会委託）

若手の狩猟免許取得希望者を対象に免許取得に向けた研修や免許取得後の実地研修等の実施（7回実施、計101人受講）

② 認定鳥獣捕獲等事業者の育成（猟友会委託）

- ・ 安全管理研修（9月に開催）
- ・ 射撃訓練（10月～11月に実施）
- ・ 銃器によるシカ捕獲技術の実地研修（10月～2月に実施）
- ・ わな捕獲技術研修（10月～2月に実施）

③ 「わな」免許取得者へ向けた捕獲・処理技術の向上研修

狩猟者登録の割合が低いわな免許取得者に対して、獣種やわなの種類ごとに詳しい捕獲技術等の研修の実施

2 捕獲の強化【自然保護課・農林水産政策課】

(1) ニホンジカの捕獲強化（猟友会委託）

指定管理鳥獣捕獲等事業を活用し、ニホンジカの生息域である7市1町（下関市、長門市、美祢市、宇部市、山口市、山陽小野田市、萩市、阿武町）で狩猟期における捕獲の強化

- 捕獲目標：3,200 頭
- 捕獲実績：3,280 頭（銃：1,780 頭、わな：1,500 頭）

(2) 地域における捕獲活動（市町協議会：鳥獣被害防止総合対策交付金）

- 捕獲対象鳥獣に対応したわな（はこわな、くくりわな、囲いわな）の導入（11 協議会）
- 捕獲経費の支援（14 協議会）
- 狩猟免許取得促進（2 協議会）

(3) 広域協議会による捕獲活動（広域協議会委託）

（各広域協議会での主な活動）

- ◇東部：捕獲機材の整備
- ◇中部：捕獲機材の整備
- ◇西部：隣接市で連携して取り組む広域共同捕獲（下関市、長門市）、捕獲機材の整備

(4) 先進捕獲技術の開発・実証【農林水産政策課・農林総合技術センター】

後述の「防護技術の開発・実証」の項で併せて説明

II 防護対策

1 地域ぐるみの被害防止活動【農林水産政策課・農村整備課・畜産振興課】

(1) 地域の実情に応じた地域ぐるみの被害防止活動

- 集落単位で、防護や捕獲、生息地管理を一体的に行う取組を推進するため、県下にモデル地域を設定し、平成 29～令和元年度にかけて 34 地域で実施（単県事業で被害対策を支援）
- 平成 29～令和元年度にかけての取組を基盤に、県下各地で、地域ぐるみの被害防止活動の波及を促進（交付金等で被害対策を支援）

<参考>

- 34 のモデル地域での被害減少額（事業実施前年の被害金額一直近の被害金額）は、約 1,895 万円（64%減）と高い効果を上げている。
- 令和 2～4 年度に「地域ぐるみ活動対策プラン」を作成し、地域ぐるみの被害防止活動を新たに 47 地区で開始。



集落環境点検マップづくり



侵入防止柵の点検

(2) 国の交付金等を活用した防護対策

国の交付金等を活用し、被害防止活動や鳥獣侵入防止柵の整備を支援

① 鳥獣侵入防止柵の整備（鳥獣被害防止総合対策交付金）

下関市協議会等、10 協議会において、鳥獣侵入防止柵を整備

- ワイヤメッシュ柵：約 133.4 km
- 電気柵：約 6.3 km
- 金網柵：約 8.6 km
- 複合柵：約 0.3 km

計 148.6 km

② 獣害侵入防止柵の整備実績（農業農村整備事業）

- ・下保木 地区（下関市） : 0.5 km
 - ・豊田豊北 地区（下関市） : 7.6 km
 - ・王喜東 地区（下関市） : 2.0 km
 - ・七見 地区（下関市） : 3.0 km
 - ・小野朝生 地区（下関市） : 5.8 km
 - ・後地・荒田地区（下関市） : 0.7 km
 - ・本郷 地区（長門市） : 1.8 km
 - ・小行司 地区（田布施町） : 3.3 km
 - ・麻郷奥 地区（田布施町） : 4.0 km
- 計 28.7 km

③ 地域における被害防止活動（市町協議会）

- ・緩衝帯の整備（萩阿武協議会）
- ・カワウ、サギ類による食害防止のための魚道へのテグス張りや、ロケット花火による追い払い活動（萩阿武協議会）
- ・サルの追い払い活動（山口市協議会）
- ・モンキードッグの養成



モンキードッグの認定試験
（下関市）

市 町	
下関市	5
萩市	13
周南市	4
美祢市	3
合 計	25

モンキードッグの認定状況

(3) 山口型放牧による緩衝帯整備の推進

- ・「鳥獣被害対策研修会（3会場）」において、山口型放牧を活用した緩衝帯整備を紹介
- ・県政放送（1件）を通じて、山口型放牧による獣被害防止効果や電圧監視装置について情報提供
- ・放牧牛の貸出し制度（レンタカウ制度）の推進（R4年度レンタル

牛延べ頭数：152頭)

- ・農林総合技術センター畜産技術部において、「山口型放牧における放牧牛の省力的看視技術の開発」を実施（R2～）

○山口型放牧面積の推移

（単位：ha）

年度	H30	R1	R2	R3	R4	増減(対前年度)
面積	320	314	295	296	274	▲22（7.4%減）



- (4) 中山間地域等直接支払制度を活用した集落ぐるみの被害防止活動
12市町の205集落協定において、41,258千円を鳥獣被害防止対策に活用

中山間地域等直接支払交付金を活用した鳥獣被害防止対策を実施中
（集落協定での主な共同取組活動）

- ・防護柵の設置
- ・防護柵・電気柵の補修
- ・電気柵周辺の草刈り



防護柵の点検・補修作業
（山口市 神角集落協定）

＜集落協定における交付金の活用状況＞

区分	総集落協定								
				鳥獣被害対策費を計上した集落協定					
	集落協定数	集落協定交付面積 (ha)	交付金額 (千円)	集落協定数	集落協定面積 (ha)	交付金額 (千円)	共同取組金額 (千円)	鳥獣被害防止対策費 (千円)	割合 (%)
下関市	99	1,989	247,953	74	1,601	209,582	110,092	11,509	10.5%
宇部市	33	566	77,346	3	47	4,519	2,333	1,513	64.9%
山口市	86	2,007	230,025	27	885	108,807	49,861	2,968	6.0%
萩市	107	1,778	236,680	16	342	44,393	26,239	4,422	16.9%
防府市	6	57	8,136	0	0	0	0	0	0%
下松市	2	34	4,647	0	0	0	0	0	0%
岩国市	65	651	100,550	0	0	0	0	0	0%
光市	2	31	4,426	2	31	4,426	2,213	864	39.1%
長門市	90	1,497	191,689	21	367	48,915	24,018	4,639	19.3%
柳井市	40	528	68,271	13	189	26,231	15,523	4,224	27.2%
美祢市	100	1,167	138,999	33	442	57,616	30,056	7,361	24.5%
周南市	26	383	54,970	10	122	17,858	12,844	924	7.2%
山陽小野田市	5	16	3,212	0	0	0	0	0	0%
周防大島町	30	132	13,601	0	0	0	0	0	0%
田布施町	9	82	15,907	1	25	4,027	2,013	2,275	113.0%
平生町	11	34	6,099	3	9	1,525	941	359	38.1%
阿武町	18	317	41,298	2	47	5,554	3,264	199	6.1%
合計	729	11,266	1,443,809	205	4,106	533,453	279,397	41,258	14.8%

注) 面積等は単位未満を四捨五入しているため、合計とその内訳の積算値は一致しない場合あり

(前年度鳥獣被害防止対策費 42,978 千円、15.5%)

(5) 防護、捕獲技術の開発・実証【農林総合技術センター】

先進技術等を活用した効率的かつ効果的な防護、捕獲技術の開発及び実証試験を実施

①ヌートリア被害対策技術の向上（山口市榎野川流域）

【課題】

ヌートリアの行動生態、生息状況を把握し、捕獲および防護による被害対策技術を向上させる。

【試験内容】

- ・ 生息状況の把握：生態調査、生息状況調査
- ・ 捕獲技術の向上：行動調査（GPS、加速度ロガー）、捕獲効率向上
- ・ 侵入防止技術の向上：簡易防止柵の開発

【今後の対応】

被害対策マニュアルの作成・公表

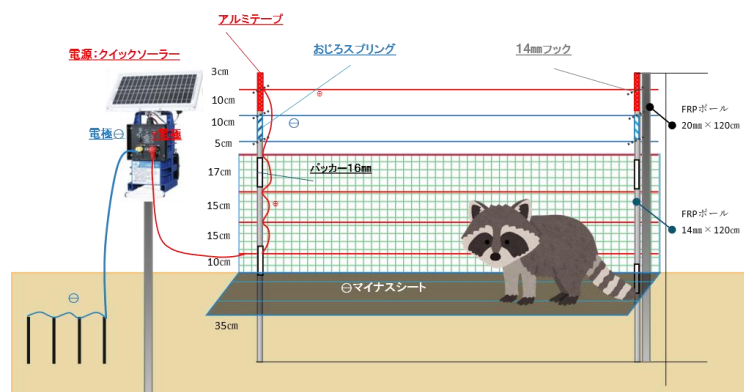
②アライグマの被害対策技術の向上（萩市平山台）

【課題】

アライグマの行動生態、生息状況を把握し、捕獲および防護による被害対策技術を向上させる。

【試験内容】

- ・ 生息状況の把握：カメラトラップ調査
- ・ 捕獲技術の向上：GPSによる行動調査、罠の捕獲効率比較
- ・ 侵入防止技術の向上：簡易防止策の開発



サル+ 中型複合電気柵

【今後の対応】

被害対策マニュアルの作成・公表

③侵入防止柵と連動した囲いワナ等による捕獲効率の向上実証

(長門市・美祢市)

【課題】

農作物被害の軽減には、被害のある農地周辺での捕獲が有効である。イノシシやシカなどの獣類は、農作物被害防止のための侵入防止柵の周辺に集まり柵に沿って移動しながら、農地への侵入を試みる習性があり、この修正を利用した捕獲方法を開発する。

【試験内容】

- 侵入防止柵に沿って移動するイノシシやシカを捕獲するシステムの開発
- 昨年度、侵入防止柵の外側に囲いわなを設置し捕獲を行ったが、地形等の影響により、効果的な捕獲ができなかったため、令和4年度は、侵入防止柵の農地側に囲いワナを設置
- 併せて、柵の外側にくくりワナ設置



長門市に設置した農地側囲いワナと捕獲した2頭のシカ



美祢市に設置した農地側囲いワナに集まったイノシシと捕獲状況

【実施結果】

- 侵入防止柵の周辺には多くの獣類が集まることを確認
- 侵入防止柵が適切に設置されていれば、連動型囲いわなは有効
- くくりわなも併用することで効率的な捕獲が可能

④地域に即した ICT 捕獲機器導入に向けた検証（美祢市）

【課題】

捕獲者の高齢化、狩猟免許取得者の伸び悩み等を解消するために、効率的な捕獲が可能となる ICT 捕獲機器の導入が行われているが、地域の要望に即したシステムかどうかを選定するのは困難である。

ICT 捕獲機器の特性を整理し、一部実証することによって地域に即した ICT 捕獲機器の導入に役立つ資料が必要である。

【試験内容】

- ICT 捕獲機器の特性整理
- ICT 捕獲機器の一部実証
- 地域に即した ICT 捕獲機器の導入に役立つ資料の作成

まるみえほかくん（遠隔捕獲等）



ホカパト（捕獲通知）



アニマルセンサー（自動捕獲）



<地域に即した ICT 捕獲機器>

- ICT 捕獲機器は、①自動捕獲装置、②遠隔捕獲装置、③捕獲通知装置の3つに分けられる。
- 捕獲通知装置は、携帯電話回線や LPWA 通信を使用。構造に大きな違いはないが、通信方法に大きな差がある。通信料金は年契約なので、年間を通した捕獲を行わないと割高となる。

【今後の対応】

作成した ICT 捕獲機器選定資料を市町に配布

2 野生鳥獣の生息環境の改善【森林整備課】

(1) 県民税等を活用した豊かな森林づくり

- ① クマ等が生息する奥山の荒廃森林（人工林）を対象に本数率で40%以上伐採することで、森林機能（生物多様性保全）の回復を図る
＜森林機能回復事業＞

- ・整備見込：85ha（計画：84ha）



R4 森林機能回復事業
強度間伐事業地（山口市）

- ② イノシシ等の出没する集落・農地等に隣接する竹林を伐採することで、緩衝帯を整備する＜繁茂竹林整備事業＞

- ・実績：31ha（計画：23ha）



R4 繁茂竹林整備事業
竹林伐採事業地（山口市）

- ③ 緩衝帯整備等、集落周辺の里山を一体的に明るく見通しの良い森林へ誘導する取組を支援する＜地域が育む豊かな森林づくり推進事業＞

- ・実績：11ha（計画：13ha）



R4 地域が育む豊かな森林づくり
推進事業（中山間地域対策）
緩衝帯整備事業地（山陽小野田市）

④ 健全な森林の造成・保全を目的に、人工造林等作業と一体的にシカ被害防護柵等を設置し、食害等を防止する <森林環境保全整備事業>

区分		R2	R3	R4
事業実績	防護柵(km)	38	22	36
	防護ネット(ha)	3	2	1
保護された森林面積(ha)		79	46	73

※シカ被害発生地域の新植における防護柵等の実施率は100%



R4 森林環境保全整備事業
[鳥獣害防止施設等整備]
シカ防護柵設置事業地
(美祢市)



R4 森林環境保全整備事業
[鳥獣害防止施設等整備]
シカ防護ネット設置事業地
(下関市)

3 対策を担う人材の養成【農林水産政策課】

(1) 集落営農法人等を対象とした「鳥獣被害対策研修会」の開催

○日 時：令和5年1月18日（水）

○場 所：山口県セミナーパーク研修室（中部ブロック）

○参加人数：5組織（11名）

○日 時：令和5年1月24日（火）

○場 所：ハーモニー美和研修室（東部ブロック）

○参加人数：2組織（5名）

○日 時：令和5年2月8日（水）

○場 所：長門市市民活動センター会議室（西部ブロック）

○参加人数：11組織（19名）

(2) 地域づくり推進チーム員を対象とした「レベルアップ研修会」の開催

○日 時：令和4年7月27日（水）

○場 所：農林総合技術センター講堂

○参加人数：29名

(3) 鳥獣被害対策アドバイザー（外部）による現地指導

11地区（下関市、萩市、光市、長門市、柳井市、山陽小野田市、阿武町）で実施

(4) その他

各地で、研修会等を開催



鳥獣被害対策研修会（萩市）



サル追い払い実技（下関市）

Ⅲ その他関連対策

1 ツキノワグマ対策

(1) クマレンジャー隊及び獣医師の体制整備【自然保護課】

- ・クマレンジャー隊を組織し、パトロールや捕獲時の安全確保を実施
- ・学習放獣時の獣医師による麻酔措置体制を整備

(クマレンジャー隊：23 地区・36 隊・254 人)

(2) 生息調査の実施【自然保護課、農林総合技術センター】

広島県、島根県と連携して、クマの出没予測等に役立てるため、コナラ等の堅果類の餌資源調査、捕獲個体の性別、年齢、食性、栄養状態、繁殖状態等を把握する個体解析調査、生息状況調査を実施

また、山口大学が行う個体解析調査（捕獲個体の性別、年齢、食性、栄養状態、繁殖状態等の把握）に必要な検体を提供

2 ニホンザル対策【自然保護課】

(1) モニタリング調査

第二種特定鳥獣管理計画に基づく総合的な管理対策を実施するため、市町による継続的な目撃情報等調査を実施

3 ニホンジカ対策【自然保護課】

(1) モニタリング調査

生息分布や生息密度等を把握するため、糞塊密度調査等を実施
(調査実績)

糞塊密度調査を 11 月に 30 か所で調査を実施

(2) 個体数推定調査

ニホンジカの生息状況調査を実施

4 カワウ対策

(1) モニタリング調査【自然保護課】

個体群管理のための生息状況等の調査を実施

(2) 広域的な連携【自然保護課】

中国四国カワウ広域協議会（事務局：中国四国地方環境事務所）に参画し、生息状況や取組状況等の情報を共有

(3) 防除の支援【水産振興課】

内水面漁業の重要魚種であるアユをカワウが捕食する被害が発生していることから、内水面漁連が行うカワウ防除の取組を支援

- ・花火を用いた威嚇によるカワウの追い払い
- ・テグス張りによる食害防除

(4～5月のアユの遡上期、9～10月のアユの産卵期に集中実施)

<防除対策の実績>

区分	H30	R1	R2	R3	R4
防除対策 実施漁協数	10 漁協	10 漁協	10 漁協	10 漁協	10 漁協
追い払った カワウの数	4,319 羽	5,175 羽	5,153 羽	6,016 羽	5,109 羽



テグス張りによる食害防止
(山口市)